PRESS RELEASE

〈報道関係各位〉

YURINDO

2023 年 8 月 7 日

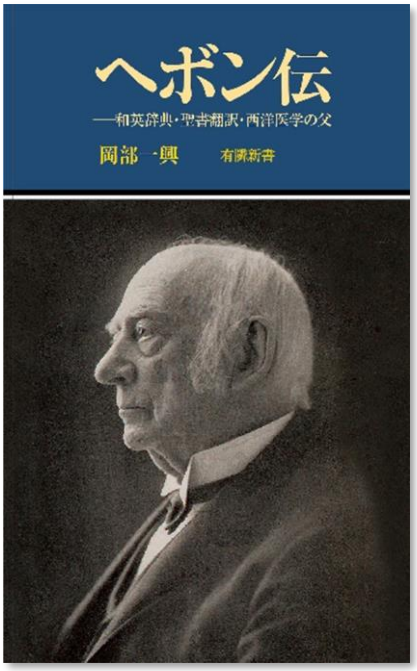
株式会社有隣堂

ヘボン式ローマ字を開発した和英辞典・聖書翻訳・西洋医学の父

有隣堂の最新刊『ヘボン伝』8月25日発売

東洋と西洋の門戸を開いたパイオニアの足跡を辿る

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、8月25日、当社出版物の最新刊として、『ヘボン伝　和英辞典・聖書翻訳・西洋医学の父』を発売します。「ヘボン」の名で親しまれる宣教医ジェームス・カーティス・ヘップバーン（1815年～1911年）が、日本初の和英辞典『和英語林集成』の編纂や女子教育などを通して、日本人が初めて触れる文化を根づかせた足跡を辿ります。著者の岡部一興氏は、ヘボン研究の第一人者である故・高谷道雄氏に師事し、研究をはじめます。本書では、ヘボンや宣教師たちの書簡を読み解くことで事実を洗いだし、ヘボンの実像に迫っています。



- **●書名　：有隣新書88『ヘボン伝　和英辞典・聖書翻訳・西洋医学の父』**
- ●著者　：岡部一興
- ●出版社：有隣堂
- ●定価　：1,320円(税込)
- ●体裁　：新書判・本文224頁
- ●ISBN　：9784896602432
- ●発売日：2023年8月25日予定
- ●取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店
- ●内容　：

黒船来航で大騒ぎの幕末、ニューヨークからアフリカ喜望峰をまわり、約180日の過酷な船旅を経て神奈川に到着したアメリカ人宣教医ヘボン（平文）。ヘボンのミッションは、西洋医学に基づく医療奉仕、日本初の和英辞典の出版、ヘボン式ローマ字の開発、旧新約聖書の和訳、キリスト教学校の設立など、膨大な労力を費やすものであったが、妻クララをはじめ多くの協力者を得て、全てを成した超人であった。本書はその足跡を描きだす。

著　者：岡部一興（おかべ　かずおき）

1941 年、東京都生まれ。明治学院大学大学院経済学研究科修士課程修了。現在、弘前学院大学客員教授、明治学院大学キリスト教研究所協力研究員、関東学院大学キリスト教と文化研究所客員研究員、キリスト教史学会会員、経済学史学会会員、横浜プロテスタント史研究会代表。

著書：『山本秀煌とその時代—伝道者から教会史家へ』教文館、『長谷川誠三—津軽の先駆者の信仰と事績』教文館他、共著：『横浜開港と宣教師たち—伝道とミッション・スクール』有隣堂、編著：高谷道男・有地美子訳『ヘボン在日書簡全集』教文館他。

■担当編集者からのメッセージ

生麦事件など、外国人殺傷事件が発生する不穏な時代、宣教医ヘボンは福音伝道を使命としながら、6 千人を超える市民を無料で治療し、西洋医学を日本に伝えました。編纂した和英辞典『和英語林集成』は、日本だけでなくロンドンでも出版され、世界中に知れ渡り、東洋と西洋の閉ざされた門戸を開いています。横浜で 33 年間を過ごしたヘボンの実像をぜひ知っていただきたい。

■有隣堂の出版物　https://www.yurindo.co.jp/yurin/tanko